

## 公共システム学科の創設によせて

法学部長 鴨野 幸雄

金沢大学法学部では、多年にわたる構想を経て、社会システムを、地球大のグローバル・システムと、国民国家内のナショナル・システムの両面およびそれらの相互関係において教育研究する目的のために、公共システム学科を新設することになった。新設にあたり、従来の政治・国際大講座に加えて、大学改組に伴う旧教養部および教育学部から、関連科目担当教官の移行が大きな影響を与えたといえる。

この公共システム学科には、一方では、主としてナショナル・システムにおける公共政策を諸側面にわたり実証的に教育研究する「公共政策」大講座を置き、実験・実習を重視し政策企画・情報処理能力の養成をはかり、他方では、グローバル・システムにおける政治的側面を日本との関係や国際比較を考慮しつつ教育研究する「国際政治」大講座を置き、国際環境分析、外国語運用能力の養成を重視していくものである。

また、公共システム学科の学生は、これも新設の渉外法務大講座を加えた法学科の授業科目も学ぶことにより、社会システムの法的規制の知識や紛争の予防・解決にあたる判断力を養うことができ、同時に、法学科の学生は、公共システム学科の授業も学ぶことにより、政策企画、情報処理の能力や国際感覚を向上させることが期待され、両学科の相乗効果は大きくなると考えるものである。

加えて、公共システム学科がその研究成果を社会的に還元し、かつ、それ以上に、進んで社会の政策的諸問題を研究課題として取り込み、その研究成果を社会に発信し、あるいは政策提言するように努めてもらいたいものである。そこには、既存の法学・政治学の研究科目に加えて、必要な隣接諸科学と研究方法を総合した特色ある学科として、国、自治体、企業などのシンクタンクとしての役割もはたしてほしいという願望があるからである。

本学科の卒業生が、政策企画能力や国際的感覚を備えて、地域や世界に羽撃く日を楽しみにしている。